

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	273000688		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとび庵大阪・淡路		
所在地	大阪市東淀川区東淡路5丁目8番38号 (電話)06-6320-9556		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	20年 3月 6日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】 (20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年5月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26人	常勤	15人, 非常勤 11人, 常勤換算19.95人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	5階建て	3~5階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月29日現在)

利用者人数	27名	男性	9名	女性	18名
要介護1	4	要介護2	9		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	4	要支援2			
年齢	平均 83.04歳	最低	74歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医誠会病院 千里丘クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に商店・公園がある便利な住宅地に位置し、かつて女子寮として使用されていた建物が、広さと採光に恵まれた生活空間に工夫されている。家事への参加、趣味の継続、外出の支援、食事・おやつ作りなど、生活を楽しみ活性化するように取り組まれている。自治会に加入し、自治会主催の「ふれあい喫茶」に毎月参加するなど、地域と交流が深められるように努力している。家族への報告もきめ細かく行われ、連携がとられている。内部研修・外部研修・資格取得のための支援など、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。現在、書類の書式の見直し・職員育成の充実などさらなるサービスの質の向上を目指して、職員が一丸となって取り組んでいる熱意が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	<p>前回の評価結果は、評価結果を回覧すると共に、フロアー会議で検討し、改善計画を立て、介護計画・研修など改善に取り組んだ。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今回の外部評価についても、フロアー会議で全職員に説明し、各フロアーの責任者が職員の意見を基に自己評価表を作成し、管理者と検討の後完成させた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>自治会長・地域包括担当者・利用者・家族をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。運営推進会議では、ホームの行事・活動・現状を報告すると共に、各メンバーからの意見を聞きサービスの向上に反映させている。また、「運営推進会議の意義」「外部評価」「感染症」「ターミナルケア」など、運営推進会議ごとにグループホームに密接したテーマを設け、情報提供すると共に理解を深めてもらえるように取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族の面会の際、話しやすい雰囲気配慮して積極的に話をうかがっている。家族会を設置し、年に1回家族会の会合を開催し、意見などを聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設置し、匿名でも意見が表明できるように工夫している。出された意見については、フロアー会議で話し合わせ、報告書を作成すると共に、職員に周知し改善に取り組んでいる。今後は、アンケート調査など、ホームを訪問する機会が少ない家族も意見が出せるような取り組みが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>自治会に加入し、自治会主催の「ふれあい喫茶」に参加し地域住民と定期的に交流の機会を持っている。また、地域のボランティアを積極的に受け入れ、ホームへの理解を深めてもらえるように取り組んでいる。地域の活動・行事への参加への働きかけ、ホームの行事への地域住人の招待を行っているが、参加には至っていない。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「より良い介護」・「感動ある介護」という基本理念は、簡潔で利用者・家族・職員にも理解しやすい。パンフレット・契約書・運営規定には、「家庭的な環境のもとで」というグループホームの基本方針が記載され、施設内の掲示には「地域社会との信頼関係」という地域密着型サービスの役割についての文言が加えられているが、基本理念としての明文化に至っていない。ただし、新年度から掲示に盛り込む予定である。		制度改正により改められた、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしてのグループホームの基本方針が、計画通り基本理念に盛り込まれることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員には、オリエンテーションで基本理念について説明している。施設内、各フロアに掲示すると共に、フロア会議の話し合いの中で基本理念に立ち戻って議論している。また、フロア単位で年間目標を立てる際も、基本理念に基づいた話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動・行事への参加は行っているが、地域の方のホーム行事参加には至っていない。ただし、自治会に加入し、自治会主催の「ふれあい喫茶」に参加し地域住民と定期的交流の機会を持っている。また、地域のボランティアを積極的に受け入れ、ホームへの理解を深めてもらえるように取り組んでいる。		地域とのつながりの基盤作りのために、今後も積極的な働きかけが望まれる。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果は、評価結果を回覧すると共に、フロアー会議で検討し、改善計画を立て、介護計画・研修など改善に取り組んだ。今回の外部評価についても、フロアー会議で全職員に説明し、各フロアーの責任者が職員の意見を基に自己評価表を作成し、管理者と検討の後完成させた。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長・地域包括担当者・利用者・家族をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。運営推進会議では、ホームの行事・活動・現状を報告すると共に、各メンバーからの意見を聞きサービスの向上に反映させている。また、「運営推進会議の意義」「外部評価」「感染症」「ターミナルケア」など、運営推進会議ごとにグループホームに密接したテーマを設け、情報提供すると共に理解を深めてもらえるように取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、市役所の介護保険課・地域包括センターなど、担当部署に問い合わせ・相談を行い、連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、写真を豊富に掲載した「ゆうとび庵通信」を郵送し、ホームの行事・活動の報告、職員の紹介、来月の行事への参加の呼びかけなどを行い、ホーム内の様子を報告している。また、利用者一人ひとりの健康状態・生活状況も、「近況報告」を毎月郵送し報告している。ご家族が面会に来られた時は、管理者・フロアー責任者が対応し、報告を行っている。また、緊急・随時の報告・意向の確認については、その都度電話で行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が面会に来られた時は、意見・苦情・要望など話しやすい雰囲気づくりに配慮して積極的に話をうかがっている。家族会を設置し、年に1回家族会の会合を開催し、意見などを聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設置し、匿名でも意見が表明できるように工夫している。出された意見については、フロアー会議で話し合わせ、報告書を作成すると共に、職員に周知し改善に取り組んでいる。今後は、ホームを訪問する機会が少ない家族も意見が表出できるような取り組みが望まれる。</p>		<p>ホームを訪問する機会が少ない家族からも意見が求められるような、また家族からは意見が言い難いという点も考慮した定期的なアンケートなどの、満遍なく家族に意見を求められる方法の検討が望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への影響を考慮し、移動は最小限にとどめ、移動する際も急激な移動は避け段階的に移動するように配慮している。職員のスキルアップへの支援、責任職への配置、相談・意見表明しやすい環境・機会作りなど、職員が定着する魅力のある職場作りを目指して努力している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者には、オリエンテーションの後、OJTによりホーム内での業務が円滑に修得できるように取組まれている。内部研修・外部研修の年間計画を立て、外部研修については案内を掲示し、希望者にはシフト調整・交通費の補助など参加への支援をしている。資格取得についても受験料・合格後の研修参加について支援し、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内の同業者については、管理者・職員共に交流・連携し、サービスの質の向上に役立てている。地域内では、働きかけはしているが、具体的な交流・連携は実現していない。</p>		<p>今後とも積極的な働きかけを継続し、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを実現することを期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>状況により変動はあるが、基本的には、利用開始前に管理者が利用者を訪問し、利用者・家族にホームに来てもらい、体験利用など利用者本人が職員やホームに馴染みながら利用に移っていけるよう取組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用開始時のアセスメント・入居後のかかわりの中で、できること・したいことを把握し、日常生活の中で役割と活躍の場を提供している。各利用者は、野菜の下ごしらえ・配膳・下膳・食器洗い・食器拭き・洗濯物たたみ・掃除など、強制されることなく、談笑しながら自然な形で参加している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に利用者・家族から希望・意向を聴取している。入居後も日々の会話の中で聞き取ったり、家族との話の中で把握したりしている。入居時家族が記入する書類には、生活歴・希望・意向が記入できる様式があるが、事業所のアセスメント表にも、生活歴・趣味・好み・希望・意向などが具体的に記入できる様式が望まれる。</p>		<p>利用開始時のアセスメントで聴取した、生活歴・趣味・好み・希望・意向などが具体的に記入し、入居後のかかわりの中で把握した情報を追加して記入し、職員が周知できるようにアセスメントシートの検討が望まれる。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画は、利用開始時のアセスメントで利用者・家族から聴取した希望・意見を基に、管理者・計画作成責任者・居室担当職員が話し合って作成した後、再度利用者・家族と話し合い、同意を得ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回行われるフロアー会議においてケア担当者と計画作成者でモニタリングの評価を行い、計画の修正、見直しを行う新しい取り組みに着手している。併せて、ケアプラン確認表を作成し、3ヶ月に1回の定期的な見直し、計画作成が確実に実施できる体制を整備している。新しい取り組みを定着させ、継続することを期待する。		計画作成責任者が話し合っ立案した新しい取り組みが、すでに着手されているが、試行しながら改善が加えられ、サービスの質の向上に反映されることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携加算を取得し、急変時や夜間の状態変化にも速やかに対応できる体制をとっている。めがねを作りに行きたい、一人で外食をしたい、息子の告別式に参列したいなど、利用者のその時々個別の要望に応じ、職員が柔軟に対応できる取り組みがある。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族との話し合いを行い納得の上、ほとんどの利用者は提携医療機関の主治医に移行している。内科、外科は週3回、歯科は週1回往診があり、糖尿や乳腺科などの専門医の往診もあり、適切な医療が受けられるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居前、契約時において、ホームの指針を提示し、ホームとしての考え方や方針について説明、家族の意向を聞き、同意書を交付している。現在まで対象者はいない。</p>		<p>ホームとしての方針を全職員で共有し、不安なくよりよい介護ができるように、重度化や終末期についての研修を定期的に行っていくことが望まれる。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>会議の場では常に言葉使いや対応の仕方について、充分注意するように話し合い、日々の介護に反映させている。特に、職員同士の会話など利用者に誤解されるような行動をとらないようにするなど留意している。職員全員には、雇用契約の際に個人情報保護の同意書をとっている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせらるよう、食事時間や、入浴時間などは、希望を聞いて対応している。外出・散歩などは、希望を取り入れながら、職員の数が多い時間帯で行っている。職員は利用者を決してせかすことなく、ペースにあわせて自立支援してる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カロリー計算や栄養バランスに配慮した献立で、季節感を取り入れた食事が提供されている。月1回の行事食や誕生会には利用者の希望を聞き、献立・買い物も含めて食事を楽しむ工夫をしている。調理の際は野菜の皮むきなどを手伝ったり、お茶を入れたり、また後片付けの際には、食器を拭くなど其々利用者ができることを積極的に行っている。食事も、利用者のペースに合わせてサポートしながら家庭的な雰囲気の中で楽しまれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あらかじめの入浴時間は設定されているが、利用者の意向や希望により、入浴を行えるように支援している。入浴時は利用者のADLを把握し安心して入浴を楽しむと共に羞恥心への配慮がなされるように指導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントで利用者一人一人の生活歴や趣味などを把握、また家族からの情報提供書を参考にして、できることは積極的に行ってもらうように声かけをし、張り合いのある暮らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や商店街などへ、日常的に散歩・買い物に出かけている。利用者の希望に応じて個別の外出も支援している。利用者の状態に応じて、少しでも外気に触れてもらえるように、玄関先のスペースや駐車場を利用して喫茶コーナーを設け、ティータイムを楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はなるべく鍵をかけないで過ごせるようにしているが、午後夕方から不穏な状態になりやすいため、フロアのドアに施錠することはある。フロア間の行き来・外出の希望には職員が即時対応し利用者が閉塞感を感じないように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回昼夜の設定で必ず実施している。非常災害時の対応マニュアルを作成し、消防署と連携をとり研修などを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部発注の献立でカロリー計算された食事が、利用者の状態に応じた調理形態で提供されている。食事摂取量や水分量はチェック表に記録され、職員全員が把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの入り口には季節の花や飾り物が置かれ、壁には行事の写真などがさりげなく飾り付けてあり、落ち着いた雰囲気でも過ごせるように工夫されている。利用者が集う場所は自然の光が入り、食事の支度を音やにおいがして生活観が溢れ、居心地のよい空間になっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのベットと机以外は利用者が使い慣れた家具や置物、絵や写真などが持ち込まれ、その人らしい安心して過ごせる部屋になっている。</p>		

は、重点項目。